

KYUSHU NATURE TRAIL



一般社団法人
九州自然歩道フォーラム

2022年次 報告書

日本の「長距離自然歩道」と進化してきた「ロングトレイル」

1969年、厚生省国立公園部より提唱された長距離自然歩道構想を皮切りに、日本各地で長距離自然歩道が整備されてきた。

構想をもとに長距離自然歩道1番目として、着手されたのが「東海自然歩道」である。高度経済成長期、都市部のスプロール化が進む東京・名古屋・大阪に“自然と線引き”をするために東海自然歩道ができた。構想に着目した九州・山口経済連合会（現・



九州経済連合会）が、観光を目的とした“九州自然歩道”を提唱。九州知事会とともに計画案を策定し、東海自然歩道が開通した1975年、整備に着手。2番目の長距離自然歩道として、1980年に九州自然歩道は全線開通した。

それから40年、近年長い距離を歩いて観光することに着目した自治体や民間団体から、長距離を歩く道・ロングトレイルの整備が行われてきた。日本を代表するロングトレイルとして先進事例にあげられる「信越トレイル」。アメリカのアパラチアントレイルやジョンミューアトレイルなどの書籍を書かれた加藤則芳氏らが長野県と新潟県の県境に造成し

た全長約80^{キロ}のトレイルである。今では世界中から歩きに来るロングトレイルとなっている。また、2019年に長距離自然歩道10番目に設定された「みちのく潮風トレイル」が、時代に合った官民連携を取り入れた維持管理システムを構築し、他の長距離自然歩道のモデルケースとしても注目され、東海自然歩道や九州自然歩道などでの活用の機運が高めている。

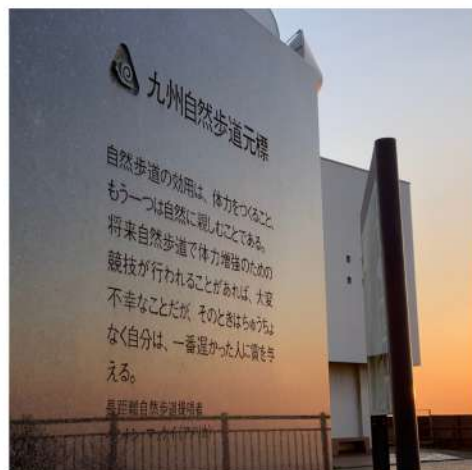
九州では、他にも熊本県美里町を中心に広がりを見せるフットパスや韓国の済州島発のオルレ、日本ロングトレイル協会に登録されている国東半島峰道ロングトレイルといった歩く道づくりが注目されている。



「九州自然歩道フォーラム」の設立

九州自然歩道は、1980年の全線開通から40年以上が経ち、自然災害や老朽化などによる通行禁止・通行困難箇所が各地で見られる。

環境省九州地方環境事務所及び福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県の7県が市町村と連携して維持管理を行っているものの、利用実態の見えない長距離自然歩道の維持管理には困難を極めている。過去、各地域で九州自然歩道に関連した取り組みを行う民間団体はあったものの、九州一円を網羅する団体は確認できず、環境省・各県は必要なときに連絡を取り合うのみで、全体的な情報共有や発信、相互連携を念頭に置いた取り組みは行われていない現状がある。そのため、各県でバラバラの維持管理や看板設置、マップ制作が行われ、利用者からしても全体の把握、各種の情報収集が難しくなっている。そういった要因から歩道の利用状況は低迷、さらに歩道の維持管理レベルが低下、そして利用者減という負のスパイラルに陥っていると考えられている。



そんな中、2009年に加藤則芳氏が九州へ来られ、九州自然歩道の視察を行った。整備が追いついていないものの受入体制を整えば“日本を代表するロングトレイルになる”と語り、その想いに賛同した九州各地のアウトフィッターたちが2012年8月に「九州自然歩道フォーラム」を設立。九州自然歩道の自治体をまたいだ一体的な取り組みを実現し、“九州をつなぐ自然と歩ける道”として、九州モデルの官民連携した再興を行っている。

九州7県全てを巡り、各地の“自然”“歴史”“文化”等をつなげる歩道は、今後生まれることはほぼないといえる。当時、九州自然歩道を構想・設定した九州経済連合会始め環境省、各県、地域の方々の熱意と取り組みは、素晴らしいものだった。この九州の誇りである九州自然歩道を残し、地域の資源として、活用していくことが、“九州をつなぐ自然と歩ける道”となる。環境省・各県を筆頭に、市町村や地域で暮らし風景を守ってきた地域住民の方々、そして歩きに来てくれている世界中の歩き人とともに、これからも続く道づくりを行う。

03 団体概要

一般社団法人九州自然歩道フォーラム

〒810-0023 福岡市中央区警固2-1-6 宇田ビル206号室

TEL : 092-600-4399

MAIL : info@kntf.jp



@kyushu_nature_trail2108

組織構成

アドバイザーチーム

相澤久美氏 (NPO法人みちのくトレイルクラブ 常務理事、
(一社)トレイルブレイズハイキング研究所 常務理事)
江副直樹氏 (ブンボ株式会社 代表取締役)

理事会

代表理事



野元 尚巳
かごしまカヤックス
代表

副代表理事



山口 久臣
(一社)IOE
代表理事



成崎 聡
NPO法人ひむか感動体験ワールド
事業部長

事務局

福島 優 (キッチンハイク九州 代表、
合同会社Trailhead 代表)



九州自然歩道フォーラム理念

九州をつなぐ 自然と歩く道づくり

九州7県をつなぐ九州自然歩道を
“自然と触れ合える道”
と
“自然と歩きたくなる道”
へと再興していく

5つの経営方針

- ①九州自然歩道をベースとした各地域での歩く文化の醸成
- ②九州内のトレイルに関する総合的な中間支援事業
- ③“歩く事業”の企画と創造と普及
- ④自然環境、自然体験活動を活用した事業
- ⑤総合的なツーリズムに関わる事業

目標

- 全県でのルートの見直しと活用
- 環境省・福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県・各市町村・利用団体との情報共有体制の構築と活用
- 各種企業との連携・協働企画の実施
- 主催事業の実施



九州全域

- 九州自然歩道管理者アンケート調査(2012)
- 道標(みちしるべ)プロジェクト(2012)
- 西日本新聞「あるこ！」連載(2013～)
- 九州自然歩道管理活用・基盤整備事業(2013)
- 7県担当者ヒアリング(2013)
- 関係者ヒアリング(2014)
- 九州自然歩道活用促進事業(2014)
- 「HYAKKEI」に連載(2015～2016)
- 「国立公園10月号」寄稿(2017)
- CATS観光創造研究会講演(2018)
- FBS開局50周年記念番組「九州1周ヤマトホ！」(2019～2020)
- 「みちのく潮風トレイル」全線開通記念式典・シンポジウム(2019)
- 「長距離自然歩道構想50周年記念シンポジウム」講演(2019)
- 「九州自然歩道40周年記念シンポジウム」共催(2019)
- (公社)日本環境教育フォーラム「地球のこども」寄稿(2021)
- 「清里ミーティング」講演(2021)
- 「ロングトレイル懇談会」招聘
- 令和3年度自然歩道関係功労者受賞(2021)

福岡県

- 第2回九州ロングトレイルミーティング(2011)
- 「里山・田園保全リーダーミーティング」講演(2012)
- 第3回フォーラムミーティング(2012)
- 第1～3回九州自然歩道ウォーク(2013)
- 福岡県コース現地踏査(2013)
- 第6回フォーラムミーティング(2013)
- 福智山管理作業イベント(2013)
- 「アウトドアシティ福岡2014春」出展(2014)
- 「パタゴニアスピーカーシリーズ」講演(2014)
- 「福岡の山のトイレ、環境を考える会」講演(2015)
- 「福岡女子大学環境経済学研究室」講義(2015)
- あったがわの旅・九州自然歩道トレッキングガイド(2015～)
- 「フレッシュマンカレッジ」講演(2016)
- 「せふりトレッキング満ぶくツアー」ガイド(2016)
- 「造園学会九州支部」発表(2016)
- 「ジョン・ミューア・トレイル報告会in福岡」主催(2016)
- 第10回フォーラムミーティング(2016)
- 「好日山荘福岡パルコ店」机上講座(2017、2018)
- 「ふくおか登山フォーラム」講演(2018)
- 「夏山フェスタin福岡2019」ブース出展(2019)
- 「ソーシャルビジネスフォーラム」講演(2019)
- 福岡県九州自然歩道親子向けトレッキングイベント事業(2019～2022)
- YAMAP英彦山ルート開発(2021)

佐賀県

- 第8回フォーラムミーティング(2015)
- 佐賀県コース現地踏査(2016)
- 太良町安全講習会(2022)

大分県

- 第4回九州自然歩道ウォーク&ロングトレイルナイト(2013)
- 大分県コース現地踏査(2015)
- くじゅうフェスin長者原(2014、2016、2019)
- 「山の日」制定記念in大分・くじゅう(2015)

長崎県

- 北部3県勉強会(2016)
- 長崎県コース現地踏査(2017)
- 高岩山トレッキングガイド(2019)

宮崎県

- 九州環境教育ミーティング(2012)
- 造園学会九州支部大会(2012)
- 第7回フォーラムミーティング(2014)
- 宮崎県コース現地踏査(2017)
- 「国立・国定公園をつなぐ九州自然歩道の新しい一歩づくり事業」補助(2021)
- 九州自然歩道魅力ステップアップ事業「ヒアリング補助」(2022)
- 福本玲央オンライン写真展「gentle」トークイベント登壇(2022)
- 九州自然歩道ステップアップ事業「祖母山ツアー」(2022)
- 「綾町トロッコ道再生フォーラム」講演(2022)

熊本県

- 九州ロングトレイルミーティング(2011)
- 九州自然歩道意見交換会(2011)
- 南阿蘇の九州自然歩道歩き(2011)
- 第1回フォーラムミーティング(2012)
- 第4回フォーラムミーティング(2013)
- 第5回九州自然歩道ウォーク(2014)
- 第9回九州自然歩道フォーラムミーティング(2015)
- ビジターセンター意見交換会講演(2016)
- WaWくまもと構想策定委員(2017)
- 第11回九州自然歩道フォーラムミーティング(2017)
- 第12回九州自然歩道フォーラムミーティング(2019)
- 「WaWくまもとネットワーク設立記念大会」講演(2020)
- 「人吉球磨地域における九州自然歩道業務」アドバイザー(2021～)

鹿児島県

- 鹿児島県コース現地調査(2007)
- 鹿児島ミーティング(2012)
- 第2回フォーラムミーティング(2012)
- 第5回フォーラムミーティング(2013)
- 「世界自然遺産 奄美トレイル」講演(2017)
- 「白紫池湖面利用ルール運用」(2021～)

2022年度 事業報告

2022年度は、九州7県中5県での事業を行うことができた。少しずつ知名度向上に伴う依頼・ご相談もあり、着実に地盤を固めていっている。

01

人吉球磨地域における九州自然歩道を軸とした ツアーコンテンツ検討業務

熊本県自然保護課>ランドブレイン(株)より受託。2年目

人吉球磨10市町村の復興に向けた九州自然歩道見直し業務に伴うコンテンツ開発事業。山口及び福島が担当。

成果：3種のコンテンツ開発及びモニター実施

自治体も含めた会議を開催し、次年度に向けた協議会設立の足がかり



02

白紫池湖面利用ルール運用補助業務

環境省えびの自然保護官事務所>(株)プレック研究所より受託。2年目

えびの高原の白鳥岳における白紫池を活用したアクティビティ開発に向けた意見交換会及びモニタリング業務。野元が担当。

成果：モニタリングの実施

意見交換会をふまえ、実施に向けたルールを選定中

03

あったがわの旅企画運営事業

福岡県政策支援課>(一社)田川広域観光協会より受託。9年目

あったがわの旅プロジェクトにおける福智山・赤村・英彦山の3つの九州自然歩道のガイドを派遣。赤村は雨天中止

成果：福智山19名、英彦山15名の計34名をアテンド



04

九州自然歩道魅力ステップアップ事業（祖母山ツアー）

宮崎県自然環境課補助事業。
宮崎県内の九州自然歩道を活用に係る補助事業。祖母山におけるガイド事業者を招いたファミツアーを実施。福島が担当。

成果：4名のガイドとの交流
祖母山の九州自然歩道を周知
今後の連携強化について合意



05

九州自然歩道魅力ステップアップ事業（ヒアリング補助）

宮崎県自然環境課>九州自然歩道みやざきハイキングクラブより受託。
県内の14市町村へのヒアリングに同行。今後の宮崎県市町村連絡協議会(仮)設立に向けた市町村の意向を調査した。成崎及び福島が担当。

成果：宮崎県内の市町村へのご挨拶
市町村の連絡協議会発足にむけた足がかり
みやざきハイキングクラブとの連携強化

06

福本玲央オンライン写真展「gentle」トークイベント登壇

アーツカウンシルみやざき>九州自然歩道みやざきハイキングクラブより受託。
写真家福本玲央氏が宮崎県内の歩道の撮影における現地ガイド及びオンライン写真展での登壇業務。成崎及び福島が担当。

成果：宮崎県内の宣材写真（本報告書の写真の一部使用）
提供▶九州自然歩道みやざきハイキングクラブ 撮影▶福本玲央氏
トークイベントによる周知(5/28時点YouTube1部200回・2部113回視聴)



07

佐賀県太良町安全講習会

太良町観光協会より受託。

多良岳における安全講習会内の2コマを担当。山口推薦のあそBe隊隊長・薄井氏に登山における安全管理講習を依頼。登山活用セミナーは福島が担当。

成果：佐賀県内ガイド等17名へ講習

あそBe隊及び佐賀県との連携強化
フォーラム自主プログラムの模索



08

綾町トロッコ道再生フォーラム

綾町>綾町トロッコ道再生プロジェクトより受託。

立入禁止となっている綾町の照葉樹林帯を通る旧トロッコ道の九州自然歩道の再生に向けた地元有志のプロジェクトが行う会に登壇。福島が担当。

成果：綾町長含めた25名へ講演

綾町との連携強化
地元有志による九州自然歩道再生のモデル

09

連載「あるこ！～九州自然歩道の旅～」

西日本新聞より受託。2013年8月より連載中の新聞紙面における体験記。毎月第1水曜日朝刊に連載中。2023年3月までに111回の寄稿を行った。福岡県から始まり、大分県・佐賀県・長崎県を通り、3月時点で熊本県・山鹿市に到達。

成果：42万部発行の西日本新聞朝刊に連載

継続的な九州自然歩道PRの機会
23年3月時点で、連載111回



2023年度の目標

九州自然歩道フォーラムは、今年で11年目を迎えます。私たちは、より大きな行動力を持ち、九州地域における自然保護と持続可能な活動の促進に向けて、今年度の抱負を以下のように決めました。

地域との緊密な連携構築

01

環境省九州地方環境事務所および各県の担当者と緊密な連携体制を築きます。地域の現状を共有し、持続可能な取り組み事例を報告します。さらに、現場でのヒアリングや相談を通じて、協力体制を強化し、地域社会にポジティブな変化をもたらします。

自立した財源の確保

02

委託に頼らず、持続可能な収益源を開発・拡大するための自主事業に力を入れます。魅力的なプロジェクトを展開し、地域の人々に価値を提供します。今年度の目標は、自主事業売上を100万円とし、経済的な持続性を確保します。

長期的なビジョンの設定と計画

03

九州自然歩道フォーラムの成長と持続性を確保するために、2024年度に向けた事業計画を練ります。具体的なプロジェクトを3つ選定し、関連するステップやタイムラインを明確化します。これにより、長期的な戦略を持ち、効果的なプログラムの実現に向けて邁進します。

2026年度の目標：3年後に向けて

1. 自主事業による売上の拡大

自主事業の充実を図り、売上200万円（全体売上の目標は500万円）を目指します。持続可能な収益源の開発に注力し、より多様なプロジェクトを展開して地域社会への価値を提供します。

2. 九州7県でのプロジェクト展開

九州地域全体での活動範囲を拡大し、九州7県すべてでプロジェクトを展開します。自然保護と持続可能な活動の推進に取り組むことで、九州の豊かな自然環境を広く守り、地域の魅力を高めます。

3. 環境省及び7県の担当者が集まる連絡協議会の設立と運営

環境省および7県の担当者が集まり、意見交換や連携を行うための連絡協議会を設立し、運営します。これにより、より緊密な協力関係を構築し、持続可能な自然歩道の推進において政府機関との連携を深めます。

06 謝辞

2022年度も、自治体の皆さま、各地域の事業者の皆さま、ガイドの皆さま、そして多くの方々のご支援のおかげで、(一社)九州自然歩道フォーラムはさらなる取り組みを展開し、九州自然歩道の再興に一步近づくことができました。

この機会に、心から感謝申し上げます。皆さまのご協力とご支援によって、私たちの活動はより効果的で意義あるものとなりました。改めて、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

今後も九州自然歩道フォーラムは、より一層の発展を目指し、九州の豊かな自然環境を守り、地域の魅力を高めるための取り組みを続けてまいります。引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(一社)九州自然歩道フォーラム
代表理事 野元 尚巳
副代表理事 山口 久臣
副代表理事 成崎 聡
事務局長 福島 優
アドバイザー 相澤久美氏
江副直樹氏

九州自然歩道フォーラム発足時の呼びかけ人
加藤則芳氏、新村史明氏、志賀壮史氏、税田裕子氏、
岡野隆宏氏、成崎聡、山口久臣、野元尚巳

日頃より緊密にご協力いただいている皆さま

九州自然歩道みやざきハイキングクラブ

(一社)トレイルブレイズハイキング研究所

山學舎

高千穂山の会

あそBe隊

(敬称略・順不同)

日頃より九州自然歩道の維持管理にご尽力いただいている担当部署

環境省 九州地方環境事務所 国立公園課

福岡県 自然環境課 自然公園係

佐賀県 有明海再生・自然環境課

長崎県 自然環境課 自然資源活用班

熊本県 自然保護課 自然環境・公園班

大分県 自然保護推進室 自然保護班

宮崎県 自然環境課 自然公園室 自然公園担当

鹿児島県 PR観光課

九州自然歩道憲章

— 「九州自然歩道」の再生と保全と活用への指針—

●九州自然歩道のあり方

- ・九州自然歩道の基本は、7県をつなぐ一本のシンプルな線であり、シンボルである。
- ・多種多彩多様な利用者のニーズにこたえるトレイルとする。
- ・人と人とを結びあう「絆」のトレイルとする。
- ・それぞれの地域、自治体は、個性は出しても必ず全体像を意識して行動する。

●九州自然歩道の目的

- ・豊かな自然や歴史・文化を地域の人たちが再認識し、九州と云うふるさとへの誇りと愛情を持ってもらうことを目指して行動する。
- ・生物多様性を十分に理解・認識して保全と活用の両面から整備するシンボリック的存在とする。

●九州自然歩道の整備と保全と維持・管理

- ・九州自然歩道を歩く人たちの物語性や夢とロマンと冒険を意識した整備を行なう。
- ・持続可能な活用のための維持・管理と保全活動を国、自治体、民間団体の連携・協働で行う。
- ・環境への負荷を極力軽減するために定期的、持続的な環境調査を連携・協働で行う。

●九州自然歩道の再生と保全と活用への連携と協働

- ・国、自治体、民間団体との緊密なる連携と協働のもとにトレイルづくりを行なう。
- ・国、自治体、民間団体が主導しつつもかつバックアップにも徹する。